

令和元年度「堺市美原区応募型地域まちづくり支援事業」応募事業一覧

		A校区まちづくり協議会
○申請事業名	小学生・中学生・高校生を対象とした防災セミナー	
○解決しようとする地域課題	①防災活動の担い手が高齢化・固定化している。 ②いつ発生してもおかしくない災害時に頼りになる若い現役世代の多くは日中地元に残っておらず、災害発生直後に適切な初動対応をとることができる者が少ない。 ③地元にいる子どもたち(小～高校生)に、災害時に周囲の人々を手助けする等の活躍を期待したいが、従来の防災訓練は自治会活動に積極的に参加する「大人」が主体となっており、子どもたちが想定外の事態に備え、主体的に考え、行動する機会が少なく、自助・共助等防災に対する認識が薄い。	
○実施期間	令和元年8月4日(日)午前9時～午後1時	
○事業の内容 ・実施場所 ・対象者 ・実施方法 ・実施体制	○実施場所:A校区 小学校 体育館 ○対象者:A校区に居住する住民(約600人) ※うち子ども(小学生高学年・中学生・高校生)は約250人 ○実施内容 1. 講話「災害とは、地震災害に対する心構え」 ※講師は「日本赤十字社大阪支部」に依頼。 2. グループ討論(小学生、中学生、高校生別にグループ分け) 各グループに防災士が1名ずつ入り、議事進行を行う。 3. 実技訓練 車椅子操作、毛布による担架作りと搬送、毛布によるガウン作り、ラップを使った容器の使いまわし 等 4. 炊き出し訓練及び模擬店 おにぎり(炊飯体験)、味噌汁、かき氷、焼きそば ※その他暑さ対策の実施(スポットクーラーの設置 等)	
事業目的・効果 (1)実行性の観点 (住民の理解と協力を得ることができ、地域全体を巻き込んだ事業となっているか。事業効果が期待できるなど、完成度の高い内容となっているか。)	A校区としての地区防災計画を策定することを念頭に、当協議会の構成員であるA校区の全自治会や関係団体を含めた総意のもとで実施されるものであり、「防災」というテーマからも、理解や協力は十分得られるものと思われる。 30年以内に約80%の確率で発生すると予測されている南海トラフ地震に対し、「備えあれば憂いなし」の環境づくりに取り組んできたが、現実実施の防災訓練では、「子ども」を対象とした訓練メニューを実施していなかったため、次世代の防災活動の担い手の発掘が急務となっている。 本事業を通じ、若い世代の自助・共助の精神を醸成することで、世代を超えた住民相互の連携を強化し、校区全体の防災力向上に繋げることができると考える。	
(2)独創性・先進性の観点 (従来の地域活動とは異なった視点や形態など、新規性や工夫・アイデアがあるか。)	校区の指定避難所で、「子ども」を対象とし、かつ「夏場」を想定した防災訓練は美原区では初の試みである。 防災訓練の基本は「習うより慣れろ」であり、子どもたちが主体となって実技訓練を経験することで、いざという時に我が身を守る方法を習得すると同時に、災害時要配慮者を支える力になると考える。	
(3)公益性の観点 (不特定多数の市民の利益増進に寄与するなど、公益性の高い事業となっているか。)	対象は校区内の全住民としているため、不特定多数の市民の利益増進に寄与するもの。(A校区内全地区に対して募集を行う。)また、子どもにも積極的に参加してもらい、普段顔を合わせる事のない大人との「顔つなぎ、心つなぎ」を促進することができると考える。	
(4)アピールしたい点	子どもを対象とした防災訓練は美原区では前例がなく、全国的に懸念されている「将来の防災活動の担い手不足」の解消に繋げることができる。 グループ討論では自助・共助の精神を学ぶことができる様々なテーマを用意しており、防災士の協力を得ながら、効率的に災害時におけるノウハウを学ぶことができる体制としている。 講話、グループ討論、実技研修と充実したプログラムとなっており、具体的に災害をイメージしながら、想定外の事態に対応することができる「行動力」や「判断力」を養うことができる。	
○予算	1,300,000円	
(1)収入内訳	①A校区自治連合会負担金	100,000円
	②堺市補助金	1,200,000円
(2)支出内訳	①報償費 看護師謝礼	20,000円
	②需用費	
	(消耗品費) ラップ、容器等	20,000円
	(食糧費) 熱中症対策用飲料水、炊き出し用材料(おにぎり、味噌汁等)	108,000円
	(燃料費) プロパンガス	20,000円
	(印刷製本費) チラシ・ポスター制作	150,000円
	③役務費 保険代	20,000円
	④使用料・賃借料 スポットクーラー(5台)リース代	150,000円
	⑤備品購入費 簡単テント4張	572,000円
	鍋コンロ式	240,000円